

奈良・藤原京左京九条三坊



(吉野山)

調査地は、飛鳥の小盆地から南に緩やかな傾斜をもつ水田地帯の西、小山集落にあり、飛鳥地方最大の寺院である大官大寺と、左京八条二坊の紀寺との中間に位置する。藤原京の条坊では左京九条三坊西北坪にあたり、調査地の北約二〇mのところ、推定八条大路が東西にはしる。調査は家屋新築にともなう事前調査として行い、調査面積は一〇〇m²である。

- 1 所在地 奈良県高市郡明日香村大字小
- 2 調査期間 一九八八年(昭63)一月～二月
- 3 発掘機関 明日香村教育委員会
- 4 調査担当者 北村憲彦
- 5 遺跡の種類 都城跡
- 6 遺跡の年代 飛鳥時代、平安時代、鎌倉時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

検出した遺構は、藤原宮期以前の井戸が二基、藤原宮期の掘立柱建物が一棟、平安時代の掘立柱建物が一棟、鎌倉時代の掘立柱建物が一棟である。各時期の建物は、すべて倉庫状の小規模な建物であった。井戸はSE〇一・SE〇二とも、長径約三m、短径約二mの楕円形の掘形をもち、深さは約二mである。井戸内には、底石も枠板も遺存せず、井戸埋土の状況からSE〇一が一度に埋められ、SE〇二は上下二時期にわたり埋められたことが知られる。しかし、上下の層の間には土器の形式差がなく、短期間に埋没したものと考えられる。

木簡はSE〇二の下層埋土から二点出土している。

8 木簡の釈文・内容

(1) 道路

091

(2) 路

091

9 関係文献

明日香村教育委員会『昭和62年度 明日香村遺跡調査概報』(一九八八年)

(北村憲彦)